

# ハフ変換とフーリエ変換を用いたムラ検出手法

～ 微細な直線を検出することでムラ検出を可能にした高速高精度な手法

平成太郎†, ウィリアム・テイラー‡

†: 画像科学技術大学理工学部, taro@image.eng.u-pc.ac.jp

‡: Soho Corporation, taylor@soho.com

簡潔にまとめて下さい

手法が一目でわかるものを

題目をうまくフォロー

匿名希望の場合はペンネーム等を.

ここにはアブストラクトを書いて下さい. アルゴリズムの最も大事なポイントを簡潔に3行以内で書いて下さい. また題目はアルゴリズムの内容が一目でわかるものにして下さい. サブタイトルも可能な限りつけて, しっかりとアピールして下さい.

処理の効果がわかるものを掲載して下さい

## 1. はじめに

この文書は外観検査アルゴリズムコンテスト2009におけるアルゴリズムの概要を説明するCRC (Camera ready copy) 原稿書式の実例です. ダウンロードしたこのファイルを直接追加・修正してお使いください. ここでは,

- ・ アルゴリズムの概要
- ・ 処理結果画像の例
- ・ テスト画像に対する数値データの例

などを簡潔に書いて下さい.

## 2. 余白

A4の用紙に、余白は上25, 下30, 左右20mm. 活字サイズは本文10.5ポ, 見出し12ポ, 文献9ポとしてください. 行間は、15ポですが適宜設定して結構です. 原稿は1ページとします.

## 3. 写真や図表

図1及び表1に示す見本をご参照ください. 写真は鮮明なものを使い, MS-Wordなどで作成する場合には, 直接原稿内に貼り付けてください. アルゴリズムの有効性が一目でわかるような途中結果画像や最終結果画像などを可能な限り掲載して下さい.

また必ず, 性能を示す数値データ (正解率と処理時間 (使用したマシンスペック)) を表にして掲載して下さい.

原稿は原則として, 白黒印刷となります. カラー印刷については, 実費ご負担の上で可能な場合もありますので, 事務局へご相談下さい.

途中結果や最終結果の画像

図1 ハフ変換による直線抽出例

表1 処理結果の例

成功率	480個/500個 (96%)
処理時間	92[msec/画像]

※CPU:Pentium4 3.40GHz, Memory:512MB, OS:WindowXP

必須!

性能を示す数値

## 4. 提出期限

2009年10月13日(火)

原稿提出の遅れた論文は論文集に掲載されませんのでご承知おき下さい.

## 5. 参考文献

適切な参考文献は読者によって非常に有益なものです. 論文内容の客観性, 分野における位置づけなどを示します. 参考文献[1],[2]はこの例のようにカッコで示します.

### 参考文献

- [1] A.Field: Research on Subjects by Some methods, Trans. ISFA, vol.34, no.2, pp.83-120, 2001.
- [2] 課題好二郎: 広大なインターネット空間を対象との開発をするFA手法の提案, 日本FA学会論文誌, vol.3, no.4, pp.124-129, 1999.